

# 熊本県で開発した新技術

熊本県農業研究センター

2021

## ウンシュウミカンのナシマルカイガラムシはマシン油乳剤以外による越冬期防除が可能である。



写真 ナシマルカイガラムシ  
雌成虫(左)と歩行幼虫(右)

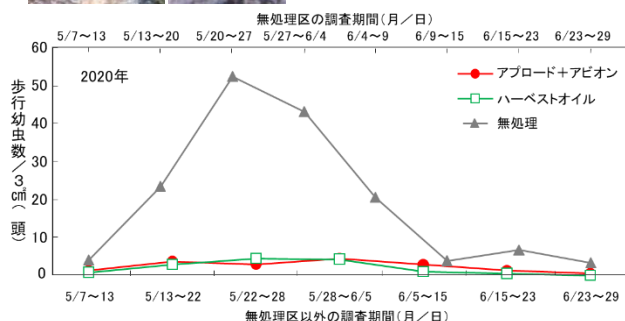


図1 薬剤の違いがナシマルカイガラムシ歩行幼虫の発生推移に及ぼす影響(2020年)

注) 歩行幼虫調査は、カイガラムシが多数寄生した枝を1樹3枝(3樹/1区)選び、両面テープを設置し、テープに付着した歩行幼虫を計数した。

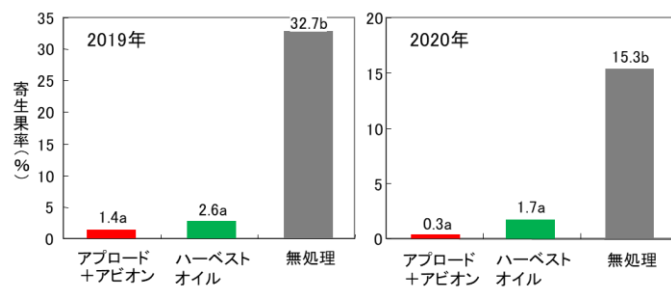


図2 薬剤の違いがナシマルカイガラムシの果実寄生率(%)に及ぼす影響(2019年、2020年)

注1) 薬剤散布日は、2019年が3月17日、2020年が3月11日であった。散布濃度は、アプロード水和剤1000倍、アビオンE1000倍、ハーベストオイル80倍であった。

注2) 調査日は、2019年が7月16日、2020年が7月13日であった。

注3) 試験区間において異符号で有意差有り。  
(ライオン法による多重比較、 $p < 0.05$ )

### 問 研究のねらいは？

答 近年、ウンシュウミカンにおいてナシマルカイガラムシが増加傾向にあります。通常、カイガラムシ類は越冬期にマシン油乳剤の高濃度散布で防除を行いますが、樹勢低下樹や裏年、冬期の低温遭遇等で、年によっては散布できません。そこで、ウンシュウミカンのナシマルカイガラムシに対して、越冬期のマシン油乳剤散布に代わる防除法を明らかにしました。

### 問 調査の結果は？

- 答 3月中旬のアビオンE加用によるアプロード水和剤散布により、
- ① 5月から発生するナシマルカイガラムシの第1世代歩行幼虫の発生数が減少します(図1)。
  - ② 7月のナシマルカイガラムシの果実寄生率を、ハーベストオイル80倍と同等に低く抑えることができます(図2)。

### 問 栽培または普及するうえで注意する点は？

- 答
- ① 越冬期防除の基本は、マシン油乳剤の散布です。本技術は、樹勢低下樹や着花への影響が懸念される場合など、マシン油乳剤の散布ができないときに利用してください。
  - ② アプロード水和剤およびアビオンEには浸透移行性がなく、散布ムラがあると効果が落ちるため、薬剤散布はせん定後に実施してください。また、ミカンハダニには効果が無いので、注意が必要です。
  - ③ アプロード水和剤の使用回数は3回ですが、アビオンEを混用した場合は感受性低下を防ぐため、年1回の使用とします。